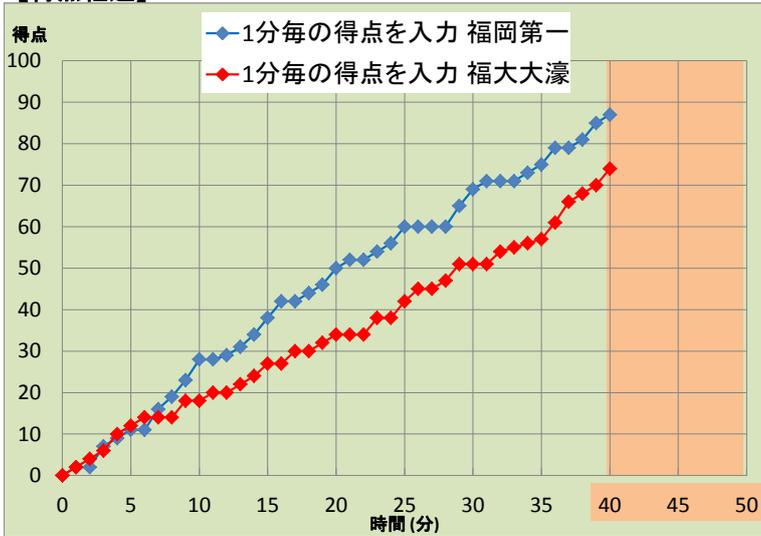


平成29年度 全九州高等学校体育大会 第70回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

【得点経過】



会場	福岡市民体育館	
日時	平成29年6月25日 (日) 13:30	
コート	Aコート	第4試合
カテゴリー	男子	決勝
主審	宇治原 尚彦	
第1副審	松本 究	
第2副審	伊藤 彰二	

TEAM A		TEAM B
福岡第一	87	74 福大大濠
福岡1位		福岡2位
○		●

28 1st 18
22 2nd 16
19 3rd 17
18 4th 23
OT

【BOXスコア】

TEAM A		福岡第一高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
0	野口 竜生	0					
1	吉居 大誓	0					
8	河村 勇輝	4	1		1	2	
10	古橋 正義	2		1		2	
16	平子 啓太	0					
17	小野 絢喜	○ 7		3	1	3	
24	松崎 裕樹	○ 9		4	1	1	
28	井手 拓実	◎ 16	1	6	1	3	
31	松本 礼太	○ 16		8		1	
46	小川 麻斗	4		2			
50	ハムアンゲイジョン	○ 19		9	1	4	
55	ディアライソフ	10		5		4	
コーチ 井手口 孝							
合計		87	2	38	5	20	

TEAM B		福大大濠高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	永野 聖汰	◎ 11	1	3	2	2	
5	上塚 亮河	10		4	2	4	
6	川島 聖那	10		3	4	2	
7	浅井 修伍	0					
8	中崎 圭斗	○ 8		4		1	
9	藤井 宏治	0					
10	山本草 大	0					
11	西田 公陽	0					
12	土家 大輝	○ 2		1		1	
13	木林 優	0					
14	横地 聖真	○ 6		3		1	
15	井上 宗一郎	○ 27		12	3	4	
コーチ 片峯 聡太							
合計		74	1	30	11	15	

【戦評】

全九州大会決勝戦は、新人戦に続き福岡県1位福岡第一対同2位の福大大濠との対戦。福岡第一のスターティングメンバーは、#17、#24、#28、#31、#50、大濠のスターティングメンバーは、#4、#8、#12、#14、#15で試合開始。第1P開始から両チームともに激しくディフェンスを仕掛ける。大濠#8のジャンプシュート、速攻で先制するが、福岡第一も素早いトランジションからペネトレイトでアタックを仕掛ける。インサイドの激しいポジション争いの中、大濠はアウトサイドの#12、#4のペネトレイトからの連続得点。福岡第一も逆速攻で#31のレイアップ#28の3Pと、お互いオフェンシブな展開で主導権を争う。福岡第一が#50のポストプレイ、#24のレイアップで連続得点し、大濠タイムアウト。激しい攻防が続くが、#17のバスケットカウントで1P28-18福岡第一リードで終了。第2P開始、大濠はゾーンに変えて福岡第一の機動力を止めにかかる。攻めあぐむ福岡第一に対して大濠#15のインサイドで追い上げをはかるも、福岡第一は#8の3P、#31の速攻を決め、大濠2回目のタイムアウト。大濠はインサイド#15にボールを集め、激しくバスケットに向かう。福岡第一はディフェンスリバウンドから素早いトランジションとペネトレイトで大濠ディフェンスを崩し、リードを広げる。大濠はアウトサイドシュートが決まらず苦しみ中、ファーストブレイクを連続した福岡第一がリズムを引き寄せ、50-34前半終了。第3P、ハーフコートの攻防が続く中、福岡第一はスティールから#31のレイアップ、ジャンプシュートと連続ゴール。大濠は#5ジャンプシュート、#14の速攻で必死に追い上げるが、福岡第一#50のポストプレイをきっかけに、ファーストブレイクで加点し引き離す。大濠後半1回目タイムアウトの後、インサイドへボールを集め立て直し、アウトサイドから#5の連続得点、ディフェンスではフルコートでプレッシャーをかけ猛追する。福岡第一はオフェンスのリズムが取れずターンオーバーが続き、得点が伸びない。徐々に大濠が点差を縮める中、福岡第一#28のアグレッシブなドライブで再び流れを引き寄せ、終了と同時に#50がリバウンドシュートを決め、3Pを69-51で福岡第一がリードで終了。第4P開始後、福岡第一#28がジャンプシュートを決め、20点と差を広げる。対する大濠は#15のインサイドプレイで返す。大濠は激しいディフェンスからスティールを連続するものの、イージーシュートのミスが続き、得点が伸びず苦しい展開。両チームともに厳しいディフェンスで得点を許さず、リバウンドやルーズボールに対して激しい攻防が続く中、#50が速攻からのリバウンドシュートを決める。ここで大濠タイムアウト。両チームともに得点が伸びない中、福岡第一#28がペネトレイトで得点をつなぐ。大濠は#4のフリースロー、#15のインサイドで猛追し、徐々に点差を縮める。2分を切って、福岡第一はピック&ロールからの得点を連続し、引き離して2桁得点差をキープ。大濠は果敢に得点を狙うが、確率が上がらず苦しみ。最後までリードを守り続けた福岡第一が87-74で勝利し、優勝を果たした。

【戦評記者】 後藤 崇明
福岡県バスケットボール協会